

朝日カルチャー野外の自然観察
宗像大社・鎮國寺 「 鎮守の森と春さがし 」

2021:1:15

新型コロナによる緊急事態宣言がでた翌日ということもあり、参加予定者が5名欠席となり8名の参加者となりましたが、先日の寒波が嘘のような柔らかい日差しの中、宗像大社と鎮國寺境内を観察しました。早速集合場所にあるボウランに目が向きます。先日の大雪で樹枝に着生していたボウランが落下していて、落ち葉と共に掃きだめられていました。

境内で目に付くアラカシ、イヌマキ、サカキ、シャリンバイ、シラカシなど樹木の説明に皆さん熱心にメモを取られます。とてもよく似たツガとモミとカヤの葉の見分け方の説明に先が丸い、二股に分かれている、先が尖っているなど違いを実物をさわって確認して、図に書いて納得して笑顔がこぼれます。次にご神木の檜の木がカシワかナラガシワか学習しました。持参した両方の葉を並べて鋸歯や葉裏の毛のぐあいや葉柄の長さの比較などをして、カシワであろうと決着しました。社叢林には、珍しいバクチノキや大木のクスノキやケヤキなどがあちこちにあり、足元にはイシカグマや大株のノシランが目立っています。シダのチェックや草本もしっかりと観察して高宮祭場で折り返し、心字池の藤棚のベンチで、暖かい日差しに包まれて昼食になりました。

午後からは鎮國寺迄歩きました。途中の休耕田で皆さんと童心にかえって春の草花を見つける春さがしをしました。ホトケノザに始まりノボロギク、カラスノエンドウ、ノミノフスマ、ヤブチョロギ、オランダミミナグサなど、小さな花を見つけて歓声があがります。14種類ほどの春の草花を見つけて皆さん大はしゃぎです。鎮國寺では早咲きの淡紅梅や熱海桜が咲き始めていました。メジロが人目も気にせず触れるほどの近さで、一心に梅の花の密を吸っている姿が印象的で、皆カメラを構えたのですが、なかなか思うようにはいきません。宗像大社では15日にある月次祭に遭遇し、普段は入れない高宮祭場の結界の前まで入らせていただいたり、鎮國寺に向かう川沿いでは、猛禽類のミサゴが獲物を狙って川に下降する姿に遭遇したりなど、素敵なおまけもあり、三密に気をつけながらの観察会でしたが、春を間近に感じる穏やかな楽しい一日となりました。

スタッフ 手島 戸町 (記)

